

宗岡中だより



11月号 平成30年11月1日(木)
志木市上宗岡1-8-1 TEL 048-471-2241

「秋空に ヒマラヤスギの 抜根かな」

校長 佐藤哲浩

先日、光が丘公園のクロスカントリーコースにジョギングに行ったら、根こそぎ倒れたヒマラヤスギの多さに驚きました。歩行者の妨げにならないように、チェーンソーで歩道にはみ出した部分は切っていますが、処分が追いつかないのでしょう。台風24号の影響で市内全ての小中学校でも沢山の倒木が発生し、その中に必ずヒマラヤスギが入っているのです。「なぜヒマラヤスギなのか？ なぜ公園や学校にはヒマラヤスギが多いのか？」、そこで疑問に思った私はネットで調べ、さらに日本緑化センターの樹木の専門家に問い合わせしてみました。



ヒマラヤスギを英語名でHimalayan Cedarと言うため、日本語ではヒマラヤスギと訳していますが、植物学上の分類では歴(れっき)としたマツの仲間です。明治の初期ごろ輸入された外来種であり、常緑樹の高木で、樹高20～30m、直径1mくらいになります。ヒマラヤスギは樹脂分が多いため耐朽性があり、病虫害に強い手入れが楽である一方、高木のわりに根が浅く強風で倒れやすく、近年は伐採している自治体もあるようです。

日本緑化センターの樹木の専門家によると、光が丘公園は米軍の跡地(成増飛行場)に作ったため、飛行場のコンクリート等を完全に撤去できず、場所によって地盤がめっぽう固い部分もあり根がしっかり張っていない可能性があるそうです。そして、なぜ創立40～50年の学校や公園にはヒマラヤスギが多いのかと尋ねたところ、学校や公園の管理者はできるだけ早く緑を増やしたい思いがあり、また地域住民に砂埃で迷惑をかけないようにするため、病虫害に強く、成長が早い高木を植えたといわれています。時代によって植樹にも流行があり、銀杏であったり欒であったり、40～50年前はヒマラヤスギが多く植えられたのだそうです。

話は変わって、10月23日に新座市陸上競技場で朝霞地区駅伝大会が行われました。10月の新人戦が終わってから駅伝チームを結成し、放課後を中心に練習してきました。当日は小雨が落ちる中、女子5区、男子6区で熱戦が繰り広げられました。県大会に出場することはできませんでしたが、出場した選手と応援の生徒は皆、必死になって取り組んでいました。そして、どの中学校も自校の選手への声援、部活関係の他校の選手への声援が大きくとても感心しました。現在、本校の体育の授業でも全学年で持久走に取り組んでいます。教師の指導のもと、同じ走力の生徒がグループになり、設定したラップタイムを刻むようにペース走を行っています。日本人は気質からチームスポーツや団体戦を好むといわれており、私もこの練習方法は生徒全体の持久力の底上げを図る良い指導法であると感じています。